

会 議 議 事 録

1 会議名	令和元年度第1回 長岡市子ども・子育て会議
2 開催日時	令和元年6月10日（月曜日） 午後3時から午後5時まで
3 開催場所	さいわいプラザ 6階 大会議室
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>池田浩委員、若槻司委員、宮下あさみ委員、加藤仁委員、 長谷川恭平委員、渡辺美子委員、榎園早苗委員、赤川美穂委員、 成田涼委員、田邊香織委員、高橋美幸委員、横澤勝之委員、 井口明彦委員、河内沙苗委員、早川明日香委員、山岸麻美委員 (アドバイザー)</p> <p>小池由佳教授（新潟県立大学）</p> <p>(事務局)</p> <p>子ども未来部：波多部長 政策企画課：林係長 生活支援課：石山係長 福祉課：仙海係長、斉藤係長 学務課：小林係長 学校教育課：佐渡主査 子ども家庭課：田中課長、五十嵐課長補佐、鷲頭係長、 大矢係長、小林主査、平沢子どもナビゲーター、 金子子どもナビゲーター 子ども家庭センター：若井係長 保育課：田辺課長、高杉係長 青少年育成課：斎藤課長、大隅係長</p>
5 欠席者名	兒玉優子委員長、山川千恵子副委員長、櫻井真理委員、 桃生鎮雄委員
6 議題	<p>(1) 令和元年度長岡市子ども・子育て会議について</p> <p>(2) 平成30年度までのあいプラン掲載事業の実績について</p> <p>(3) 次期「長岡市子育て・育ち“あい”プラン」の策定について</p> <p>①策定方針</p> <p>②教育・保育提供区域について</p> <p>③グループワーク「計画策定にあたって大切にしたいこと」</p>
7 その他	アドバイザーからのまとめ

<p>8 会議結果の概要</p>	<p>議事 (1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.1他に基づき説明した。 ・質問・意見はなし <p>議事 (2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.2 に基づき説明した。 ・質問・意見は下記のとおり <p>議事 (3) について</p> <p>① 策定方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.3に基づき説明した。 ・質問・意見は下記のとおり <p>② 教育・保育提供区域について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.4に基づき説明した。 ・質問・意見は下記のとおり <p>③ グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見は下記のとおり <p>その他については下記内容のとおり</p>
<p>9 会議内容</p>	
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ (事務局)</p> <p>3. 新任委員紹介 (若槻委員)</p> <p>4. 議事</p> <p>(1) 令和元年度長岡市子ども・子育て会議について (事務局)</p> <p>下記資料について事務局が説明 資料No.1「令和元年度長岡市子ども・子育て会議について」 ※意見等なし</p> <p>(2) 平成 30 年度までのあいプラン掲載事業の実績について (事務局)</p> <p>下記資料について事務局が説明 資料No.2「平成 30 年度までの“あい”プラン掲載事業の実績について」 (委員)</p> <p>「保育士派遣事業」について、何名くらいのお子さんが年度途中での入園が可能になったかお聞きしたい。 (事務局)</p> <p>保育園への保育士派遣については、年齢ごとにそれぞれ基準がある。実際どこの園に保育士が配置され、何人の入園が可能になったかという資料が手元にないためお</p>	

答えできないが、年度途中で園児が入園したいというときに、保育士の募集をかけてもなかなか集まらないという実態があり、人材派遣会社に依頼をすれば保育士が派遣されるのではないかとということで、29年度、30年度と事業を実施したが、やはり人材派遣会社でも年度途中で有資格者の確保が難しいとのことで、この事業は30年度で廃止している。

(委員)

自分自身も子育て中だが、年度途中では保育園に入園出来ないということが友人の間でも浸透しており、入園に関してみんなが情報を欲しがっているので、これで確保が見込めるかと思ったが厳しい状況ということがよくわかった。

(事務局)

年度途中での入園希望は、主に0歳～1歳の子どもの受け入れを想定してこの時はスタートしたものであるが、保育士不足で人材確保ができなかった状況である。

(3) 次期「長岡市子育て・育ち“あい”プラン」の策定について

①策定方針

下記資料について事務局が説明

資料No.3「次期長岡市子育て・育ち“あい”プラン策定方針(案)」

(委員)

パブリックコメントについては、今までの計画策定の際も実施したか。

(事務局)

現行のあいプラン策定の際もパブリックコメントは実施した。ホームページに計画の素案を掲載し意見募集を行った。

(委員)

結果はどうだったか。

(事務局)

意見はなかった。

(委員)

いろいろな人から意見をもらうことはとてもいいことだと思うが、行政がこのようなことを実施していることを自分自身知らなかったのも、やっていることをもっとたくさんの人に知ってもらうのも大事だと思う。

(事務局)

今回パブリックコメントをする際はできるだけ多くの市民から見ていただけるよう、周知の仕方を検討したいと思うので、皆様からもまたご意見等をいただければと思う。

(委員)

子ども・子育て会議の存在自体を知らない子育て中の方が多いと思う。この議事録がホームページにも掲載されているが、あまり市民に伝わっていない、見る暇もないという状況だと思う。そのあたりをもう少し改善していただければと思う。

②教育・保育提供区域について

下記資料について事務局が説明

資料No.4「教育・保育提供区域の設定について」

(委員)

区域設定をすることにより、どういうことが変わっていくのか。また、区域設定はどの程度厳密に設定するのかをお聞きしたい。

(事務局)

区域設定の考え方とところの「留意点」をご覧いただきたいが、教育・保育提供区域の設定というのは、あくまで確保に向けた需給調整の単位であり、学区制と違い、区域を決めたからといって区域外への通園等ができないわけではない。あいプランにおいては、通常の教育・保育のほかに、延長保育や一時保育などについての量の見込みや確保対策について記載している。今後の通常保育に限らず、保育全般について今後どのような需給が発生するか、基本となるものを定めるものとして、教育・保育の提供区域を設定するものである。当課でいろいろな保育の事業を行っているが、すべてのベースとなるのはこの提供区域だが、一方で子どもの通園範囲に影響を及ぼすということは考えておらず、事業内容によっては、提供区域にそぐわないということもでてくるので、あくまでベースとなる分け方である。

提供区域の数について、現時点で検討しているのは3～4つの区域が生活圈、通勤圏を考えたときに妥当ではないかと考えている。

④ グループワーク「計画策定にあたって大切にしたいこと」

次期“あい”プラン策定にあたっての「基本的な視点」についてA～Dグループに分かれて検討し、発表
発表内容は下記のとおり

【Aグループ】

現行の長岡市子育て・育ち“あい”プランの基本的な視点が、とてもいい考え方であるため、それを補足する形で検討した。

「すべての子どもの幸せや健やかな成長を第一に考える」視点については、「すべての子ども」というところにポイントを置き、生まれ育った環境に左右されることなく、将来に夢や希望が持てることが大事な観点である。

「次代の親づくり」という視点では、今の若者が親になったときにどうするかというのは、子どもの頃から学んでいく必要があるのではないか。

「親の子育て力を伸ばす親育ち」という視点では、SNSなど親の力が及ばないような現状がある中で、具体的に子どもとどう接したらいいかを考える必要がある。

「子育てを社会全体で支援する」視点では、子育て中の親の働き方を企業側も理解し協力することが大切であり、子育て中の親御さんは、子どもが急に熱を出したり、幼稚園や学校の行事があっても参加できないなど悩んでいる方も多いため、

雇用する時にそれを話し合うのも必要ではないかと思う。

その他、多くの子どもを設ける多子社会の実現、多くの外国人の方が入ってきているので、多国籍の方に対する支援、また、子育て中の親の悩みを受けとめて、どう導いてあげられるかを考えることが必要などの意見が出た。

私は子どもの虐待防止の活動をしているが、昨今痛ましいニュースがたくさんある。学校や児相、行政の連携が必要だと叫ばれているが、どうしたらいいのか具体的に連携を考える時期だと思う。ただ漫然と子どもの命は大事だと言っているのではなく、避難訓練をするように、子どもの叫びが聞こえたら、どういう風に速やかに命を守るかというように、具体的な策が早く実現できるといいと思う。すべてに関連することだが、今はSNSなど便利なものがあるので、それらを使ってもっと情報を発信できたらいいのではないかという意見もあった。

【Bグループ】

すべての子どもを中心に、どんな子どもでも育ちやすい環境を目指したいというところで、「保護者のニーズだけではなく」という言葉から入るのではなく、とにかく子どもを真ん中に考えていくことが大切だと思う。

自立して生きていくことももちろん大事であるが、周りと協力して人と関わっていく力、生活力、社会性、コミュニケーション能力をつけることで、繋がる力がつき、最終的には自己肯定感の高い子どもに育ってほしいと思う。

親育ちと子育てのところでは、今子育てをしている親自身が子育てを楽しんでいると思えたら、子どもへ愛情がかけられたり共感できたりして、それがまた自己肯定感を育むことに繋がると思う。

その中で、親や支援者への視点では、ワークライフバランスやお父さんの育児参加、支援者のゆとりについての意見があった。先生方も仕事がたくさんあって本当に大変だとは思いますが、何気ない雑談ができる、余裕のあるような育て方のサポートがあると、子どもともゆとりをもって関わっていけるのではないかと思う。

子どものサポートと同時に親のサポートも必要であり、社会的な支援の中で、全力で子どもの支援をしなければならないと考えるよりも、できることを「おすそわけ」するような気持ちで一人一人ができることを積み重ねていくと、大きな支援になっていくのではないか。

最終的には子どもの自己肯定感を育むためにどうしていくのかということと、子どもを中心に考えていくという視点を大事にしていきたいと思う。

【Cグループ】

自分たちが子育て中であり、他の親御さんと関わる機会がある中で、次年度の計画策定にあたって大切にしたいことのキーワード出しをし、基本理念の中にある「みんなで子育てするまち長岡」というところを真ん中にもってきた。

社会全体で共に子育てをしていく中で、親と子どもの時間の確保が大事だということ、地域との関わりを密にしていくこと、放課後の子ども同士のトラブルなども、地域の人たちと関わっていくことでサポートしていけるのではないかという

意見があった。

また、0～3歳児への支援強化について、保育士が足りていない背景には、保育士の働き方、就職者へのサポートが手薄になっているのではないかという意見も出た。

保育園の情報など、親自身もよくわからないところがあるので、相談体制の連携が必要であり、また、当事者主体のつながりの中でのおしゃべり会、口コミ情報、在園児のママたちが、入園を希望しているママへ話しをする機会が好評だったことから、行政では当事者目線で情報を伝えるのが難しいため、当事者主体の子育て支援団体と行政との連携が大事だと思う。

外国籍の家庭や疾病をもった親などニーズが多様化していること、また、フルタイムで働けない事情のある方等がいる中での、きめ細かな情報提供、専門的な相談援助が必要である。

最終的には子どもを1番に考えた内容として、子育て力をつけ、親として自立することを目指して計画を策定していければと思う。

【Dグループ】

家族が多様化し、地域の関係性が希薄化していく中で、子ども食堂などの交流の場があるといいのではないかというところから、となりのおじちゃんおばちゃんのような「おせっかい」の視点での支援があるといいと思う。そういった交流の場で、悩みがあっても声をあげられない人をキャッチし、必要な支援につなげられるといいのではないか。

子どもを産んだからといってすぐに親になれる訳ではないので、親も子も共に育っていこうという観点での支援が必要。また、ワークライフバランスや経済的支援など、親への支援をする際にも子どもファーストで考えていくという視点が大切だと思う。

こういった視点から子育て支援をしていくことで、最終的には長岡市が豊かになっていき、「みんなで子育てするまち」に繋がるのではないか。

(2) アドバイザーからのまとめ

長岡市子育て・育ち“あい”プランのニーズ調査の報告書と生活実態調査の報告書の両方を見させていただきながら、長岡市の基本理念が的を得ていて、とても大事な3つの視点が入っていると改めて感じた。

現計画を作られたのが平成27年3月で、それから5年経ち今回新計画の策定となるが、この5年間で、子どもや子育て家庭を取り巻く状況がいろいろ変化した。国の動きも早く、問題が起きたらすぐに法律を作っていこうという所があり、この5年間で多くの法律ができています。

例えば、現計画策定の根拠となる1番最初の法律が作られたのが平成24年で、そこから3年間で現計画を策定したが、この計画を作った段階ではまだ明らかになっていなかった「子どもの貧困」が社会問題だということで、子供の貧困対策推進

法という法律ができた。

また、平成28年に児童福祉法の改正も行われている。その第1条の総則のところに、「子どもの権利条約の内容に則り」という文言が入った。今まで入ってなかった子どもの権利条約をベースに子どもの福祉を考えていくという法改正だった。この中で、「子どもの最善の利益」というキーワードも入ってきており、このキーワードがここ数年でいろいろな子どもに関する施策に影響を与えるようになってきている。子どもの最善の利益といっても、子どもだけをターゲットにするのではなく、子どもはもちろん、子育て家庭や社会がどういう役割を果たしていくかということを含めての最善の利益である。お父さんお母さんが辛い思いをしているのは子どもの幸せはなく、子どもたち一人一人が大切にされて育っていくのと同時に、その子どもたちを育てる保護者の皆さんが、ゆとりや自信をもって子どもに向き合うことができる環境をどう作っていくか、そしてそういった子どもや子育て家庭を社会がどう支えていくか、この3点が三層になって初めて、子どもの最善の利益が保証されていくという所が基本的な考え方かと思う。

子どもの貧困対策推進法は、今見直しの法律案が出ており、今回新しく策定する次期「長岡市子育て・育ち“あい”プラン」の中で貧困対策計画を入れようとしているが、国が各自治体に計画策定を努力義務とすることが示され、おそらく法案は通ると思うので、確実に計画を作らなくてはならないと思う。

虐待防止法でも見直しがなされていて、しつけを目的とした体罰禁止ということが示されると思う。

皆さんのご意見の中にもあったが、外国人や要支援家庭などの、いろいろな家族が地域の中で増えてきて、地域の中でどう暮らし続けていくかということが課題となってくると、地域がどう支えていくかが大事な時代になっていく。障害をもったお子さんを育てている家庭や、経済的に困窮している状況にある家庭をどう受け入れていくかなど、全部含めた上での地域づくりをしていかなければならないというのが、一つの観点として必要だと思った。

また、前の計画策定の中でも触れられていたことと、自分の印象もそうだが、長岡市は行政の方が頑張っておられるので、もう少し企業の方にも頑張ってもらいたいというのが正直な印象である。地域は行政だけが作る訳ではなく、市民団体や企業の方たちがどれだけ協力して一緒に子育てに関わってくださるかが大事になってくると思う。企業への働きかけについては、皆さんに関心を持ってもらえるかどうか大切であり、大きな改革をしなくても、ちょっとした配慮の積み重ねを企業側がしていただくことで、子育て中の家族が働きやすくなる部分があると思う。親子の時間を確保して欲しいという意見もあったが、企業の協力なしではできないこともあると思うので、そのあたりを考えていただきたい。

発表の中で、「おすそわけ」と「おせっかい」という言葉が出ていたが、おすそわけをしていく中で地域作りをしていきたいと思いますということや、おせっかいなおじちゃんおばちゃんが地域にいた方が、話しやすい人も出てくるんじゃないかなど、お

せっかいの場、おすそ分けの場や機会を増やしていくことも大事なのではないかと感じた。

基本理念はこのままいくのがいいのかなと思うが、中身についてはこの5年で大きく変わっているところがあるので、そういった観点から検討を進めていただければと思う。皆さんがグループワークの中で出していただいた意見は、それに繋がるような要素が入っていたかなと思いながら聞かせていただいた。

5. 閉会

(出席委員の署名欄)

上記会議議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名をする。

長岡市子ども・子育て会議 委員

印

10. 会議資料 別添のとおり